

ヒューマンインタビュアー

タクテック

侘美 好則社長



「人と機械の融合」が信条

物流センター運用事業で独立 拡張性を最優先

高精密機器などを扱う商社の橋本興業に三十年以上勤め数々の物流センター現場を踏んできたが、今年二月に独立した。目指すは「まず機械ありき」という、旧来型マテハン設備導入からの脱却、「クライアントと一緒に問題解決しながら、物流のシステム運用を提供すること」が起業の目的だ。

「企業の物流環境は刻々と変化するというのが持論。橋本興業時代に花王の物流センター運用を手がけたが、この時に企業の成長・変化に伴いセンターも変

わっていくことを学んだ。大掛かりなスペースや機械を用意したり見栄えをよくするのはなく、「売上を追い及ぶことにより、コストを抑えながら高機能のセンター運営が実現できるといふ」。

そのキーワードとなるのは、「バランスよく機械と人を融合させること」との

自動化するほど、機械の故障率は上がる。また、昨日入ったパトさん

公共回線を利用し、クライアントのコンピュータに入り込んでセンターシステムを補修するリモートメンテナンスも実施。これら各種サービスを組み合わせて、三年以内に十億円の売上高を目指したい考えた。

AS(ゲートアソートシステム)やGPS(ゲートピッキングシステム)を通じ、大手総合通販の物流システム改善も手がけている。物流システム提供のほか、二十四時間対応のヘルプデスクも展開。現在起きているのがどのようなトラブルなのか、物流センターやコールセンターのセンター長をはじめ主だった人のパソコンや携帯電話に即時情報を提供する。「まず情報の共有化を図り、問題点や補修を検討し合う」という。